

平成27年度 ベトナムビントゥアン医科大学校（BTMC）海外視察報告

辻 よしみ^{1)*}, 片山 陽子¹⁾

¹⁾ 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科

A report on an overseas inspection of Binh Thuan Medical College (BTMC) in 2015

Yoshimi Tsuji^{1)*}, Yoko Katayama¹⁾

¹⁾ *Department of Nursing Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural University of Health Sciences*

要旨

ベトナムファンティエット省ビントゥアンの看護教育・病院や他施設の実態を把握し、今後のBinh Thuan Medical College (BTMC: ベトナムビントゥアン医科大学校) との具体的な国際交流について検討を深めることを目的に海外視察に参加した。

今回の訪問では①BTMC概要説明, ②BTMC看護科の講義と演習の見学, ③ビントゥアン省総合病院見学, ④ヘルスセンター見学⑤教員との交流を実施した。

ベトナム社会主義国は, 1975年にベトナム戦争が終結して以来, かなりのスピードで国の再建が行われてきている。しかし, インフラや医療や教育等の多くの点で発展途上の部分がある。現在は, 地域住民や教員は若い世代が多く, 今後の成長や発展の可能性を感じる国だった。また, 今後は急激な高齢化を迎えることも予測されている。今後両校間で教員交流や学生間交流を実施しながら国際交流を深めていきたい。

Key Words: ベトナム (Vietnam), 国際交流 (international exchange), 看護教育 (nursing education), 保健医療制度 (health and medical care system)

*連絡先: 〒761-0123 香川県高松市牟礼町原 281 番地 1 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科 辻 よしみ

*Correspondence to: Yoshimi Tsuji, Department of Nursing, Faculty of Health Science, Kagawa Prefectural University of Health Sciences, 281-1, Murecho-hara, Takamatsu, Kagawa 761-0123, Japan
E-mail: tsuji@chs.pref.kagawa.jp

はじめに

香川県立保健医療大学では、基本理念に「国際的視野をもって保健・医療・福祉に関する問題を考え、判断し、活動できる人材の育成」を掲げており、教員及び学生の国際交流を推進してきている。その様な中、2015年1月にベトナムビントゥアン省にあるBinh Thuan Medical College (BTMC：ベトナムビントゥアン医科大学校)と国際交流のための協定を結び、学術交流等を進めることとなった。そこで、ビントゥアンの看護教育・病院や他施設の実態を把握し、今後の具体的な国際交流について検討を深めることを目的に本学看護学科教員2名が海外視察を行った。

視察内容を以下に報告する。

表1 研修スケジュール

月日	研修内容
8月24日(月)	移動日
8月25日(火)	ビントゥアン医科大学校(BTMC)歓迎会、キャンパスツアー ビントゥアン省総合病院見学 ビントゥアン省副知事表敬訪問 医学校主催ウェルカムパーティ
8月26日(水)	BTMC学校紹介及び看護部門カリキュラム紹介 KPUHS学校紹介及び看護学科カリキュラム紹介(辻) BTMC講義見学 BTMC演習見学 医学校教員とのディスカッション 外務局役人主催のパーティ
8月27日(木)	日本の社会保障及び医療システムの紹介(片山) コミュニケーションヘルスセンター見学訪問 BTMC学生との交流会
8月28日(金)	評価ミーティング フェアウェルパーティ・移動日

視察の概要

1. 視察内容

視察内容(スケジュール)の詳細については、表1のとおりである。

2. 期間

2015年8月24～29日

3. 目的

ベトナムにおける医療及び地域保健活動、BTMCにおける看護教育の現状の視察。

ベトナムの概要

最初にベトナム社会主義共和国の概要および疾病構造と現状を紹介する。

1. 位置

ベトナム社会主義共和国(以下ベトナムと略す)は、東南アジアのインドシナ半島にある国で、2015年United Nations(国際連合)推計人口9,340万人¹⁾である。BTMCのあるファンティエットはベトナム南部のビントゥアン省の省都で、ホーチミンから北東へ約200kmの都市である。ホーチミンからビントゥアンへ通常の移動手段は、汽車および自動車での移動である。著者らはホーチミンからは自動車での移動となった。

2. 政治的背景

ベトナムでは、1986年に導入されたドイモイ(刷新)政策より経済成長が加速している。

政権は、ベトナム共産党の事実上の一党独裁による政治が行われている。また、社会主義体制だが、中国の社会主義とは異なり、マルクス・レーニンの社会主義思想に加え、ホーチミン思想(自分たちの力で独立を果たし、自由な国づくりに汗を流し、国民すべてが幸福になろうというもので、「独立」と「生きることへのこだわり」が優先する)がそのベースにある²⁾。

3. 疾病構造

ベトナムの死亡率の高い疾患は、循環器系疾患(高血圧、心筋症、動脈瘤等)、感染症・寄生虫、外傷、呼吸器疾患、周産期疾患である。疾病構造には、感染症から生活習慣病まで含み先進都市型と後進農村型が並存している³⁾。

4. ベトナム視察時の現状

国の背景として、1975年にベトナム戦争が終結して以来、かなりのスピードで国の再建が行われてきている。しかし訪問した際、都市部と農村部においては、インフラや医療や教育等の多くの点で格差が感じられた。そのためホーチミン市内を少し離れると森林や農村地帯が広がり、道路や交通機関の整備も不十分な場所もあった。また交通手段はバイクが主で、無数のバイクが走行していた。道路には信号もほとんどなく、車の両サイドからの追い越しや単線でも複数に車は連なり交通ルールが乱れていた。学校関係者の話では、交通事故も多発しているとのことだった。

また、生活道路では、歩道上に敷物を敷いて食物(野菜、果物、肉、魚等)の販売が行われた。また場所によっては、下水道の整備が整っていない所もあった。

視察内容

本稿では、特に①BTMC概要説明、②BTMC看護科の講義と演習の見学、③ビントゥアン省総合病院見学、④コミュニケーションヘルスセンター(以下ヘルスセンターと略す。)見学⑤教員との交流について報告する。

1. BTMCの概要について

教育部長からビントゥアン医学校の概要およびベトナム



図1 ビントゥアン医科大学校外観



図2 ビントゥアン医科大学校教員と集合写真

ムの看護師（3年課程）の役割について説明があった。

1) BTMC教育概要

BTMCでは、ベトナムの教育訓練省の2007年11月9日の議決書により設立が認可され、2008年に看護師（3年課程）や薬剤師等の養成を開始された。現在までに養成科では、看護師・医学エンジニア・助産婦・薬剤師等の12種類の職種の養成が行なわれている。今後は、検査学科、画像診断、リハビリ等の新しい学科の開設が予定されている。

BTMCは看護師（3年課程）教育において、2011年9月に初めて57名の卒業生を出した。また、他に2年間の中等レベル看護師教育課程が設置されている。本稿における説明は全て看護師（3年課程）に係るものである。BTMCの2015年8月現在の看護科の卒業生数は602名となっている。在学生数は491名であり、1年生131名、2年生240名、3年生120名であり、男性学生の割合は10～15%を占めている。

看護師（3年課程）養成は6学期制で行っている。卒業要件の単位数は、講義140単位（15回で1単位）、実習33単位（45回で1単位で学内演習は実習に含む）で、講義、実習共に1回の講義時間は45分で行われている。こ

れらのカリキュラム数や内容は、ベトナムの教育訓練省で定められており、その規定に従って教育は行われている。合わせてBTMCでは、看護研究（科学研究と呼んでいた）は必修で、1単位（講義16回、演習20回）で行われている。また、実習は内科、外科、産婦人科、小児科、感染症科、リハビリテーション、ICU、救急、腫瘍科の病棟を有するビントゥアン省・郡内の病院及び地域のヘルスセンターで実施されている。教育方法は、診療科別の看護教育には分かれておらず、対象別および技術項目別に展開されている。

また、看護師と助産師の教育課程は、日本の様な積み重ね教育ではなく、高等学校卒業後にそれぞれの専門コースに入学する形式となっている。BTMC入学時の要件としては、12年間の義務教育修了が必須となっており、2015年9月には300名が入学予定である。

ベトナムで看護師資格の取得は、指定の教育機関を卒業する必要がある。その資格は、国家資格でなく、卒業試験が資格取得の基準となっている。その後、9か月の臨床研修が義務化されている。一度、取得した資格は永続的で更新はない。卒業後の進路は、総合病院等の医療機関、ヘルスセンター、教育関係、大学または大学院への進学、医療に関する研究施設・研究所等である。

2) BTMC施設・職員

BTMCの学内施設は、9講義室と1会議室、6専門教室（解剖、薬理、スポーツ、産科等）及び大講義室があった。

学内職員数は114名（うち60名が教員）であった（平成27年8月現在）。学長1名（医師）、副学長（医師）が4名おり、教員の学歴としては博士号取得者1名、修士号取得者8名であった。その内、看護学科教員の学歴は、修士号取得者1名・大学修了者12名・看護師課程修了者（3年課程）4名、中級看護師課程修了者（2年課程）1名、その他に高等学校修了者6名等であった。

3) ベトナムの看護師（3年課程）の役割

看護師の役割については、①ヘルスケア・教育②看護管理業務③人材育成・科学研究があげられた。

(1)ヘルスケア・教育

看護師は病院等の医療機関やヘルスセンターで看護実践者として、患者の看護計画立案とその実践や患者の異常の早期発見に努め、医師へ報告することが役割である。また、医師の指示にもとづき診療補助やターミナルケア、患者の救命救急及びコミュニティのプライマリケアを実施することとなっている。

(2)看護管理業務

看護管理業務として、病棟・患者・診察室管理や医療施設・薬・診療患者情報記録の管理を行うこと、また病棟の事務的業務、患者や家族管理に関することがある。

(3)人材育成・科学研究

病院や学校では、互いに協力し助けあい、医療職の訓練に参加すること。看護に関連するトレーニングや科学



図3 BTMC講義風景

的に看護研究を行うこととされている。看護研究では、帝王切開に関する研究や脳卒中患者の調査等幅広く行われており、自己の専門レベルを高めるための研修受講等も役割となっている。

2. BTMC看護科の講義と演習の見学

BTMC訪問2日目の午前中に上記のように医学校の概要と看護教育の概要について説明を受け、午後には看護科の講義と看護技術演習の見学を行った。

1) 看護学講義の見学

教員は自分の専門の科目（または技術）を担当するが、講義、演習共に少人数グループで実施することが基本であるため、同じ講義を複数のグループに繰り返して実施していた。

見学した講義は3年生を対象とした老年看護であり、学生数は19名であった。通常、講義は学生数約20名1クラスで行うとのことであった。講義内容は①高齢者の精神的特徴②うつなどの精神疾患およびその予防③症状を有する高齢者へのケアについてであった。教員は、講義に際して45分間の講義計画を作成し、今回の講義の学習目標、講義展開スケジュール、学習形態、学習到達度の評価、各々の中で実施する学生への質問内容など詳細に講義案を立案していた。

教員は、講義の最初に本日の学習目標を提示し、パワーポイント資料を用いて講義を行っていた。また、高齢者の精神的特徴やうつなどの疾患の基礎知識など既習の内容については次々に質問しており、それに対して学生も活発に意見を述べるなどの様子が見られた。高齢者の精神疾患の予防や対策の講義では、各3～4名の学生でグループを作りグループワークを実施させた上で意見を交換していた。45分間と1コマの講義時間は短いですが、講義終了前の5分間を用いて本日の学習目標に併せた質問を準備しており学生の回答によって理解の程度を確認し、今回の講義評価を実施していた。教員は、講義に際しては全ての講義で今回と同様に1分単位の詳細なタイムスケジュールも入れた講義案を作成し、実施している



図4 BTMC演習風景

とのことであった。

2) 看護技術の演習の見学

講義後に演習室に移動し、看護技術の演習を見学した。演習では、講義同様に少人数教育を実施しており、講義よりもさらに人数が少なく1クラス学生10名を対象に1名の教員が担当し実施していた。

見学した演習は筋肉注射であり、対象は1年生であった。筋肉注射の演習は45分2回の演習で構成されており、今回見学した演習は2回目の演習授業であった。学生は授業開始時にDVDを視聴し前回の授業内容と筋肉注射の実施方法のデモンストレーションを動画で確認していた。DVDは市販のものではなく授業担当教員がモデル人形に対してデモンストレーションしている自主作成した動画を活用していた。

教員は、講義同様に最初に学習目標を提示し、技術チェックリストを用いて学生全員で内容の確認を行った上で2グループ（各5名）にわかれてモデル人形を用いて技術の確認をしていた。演習室にはベッド2台と注射用モデル人形2体が準備されていた。看護師役の学生がモデル人形に説明をしながら筋肉注射を実施し、その様子を一人の学生がチェックリストを用いて評価し他の3名が気付いたことをコメントしていく形で進めていた。その後、教員は授業最後の8分間で評価指標を提示した上で質問し今回の学習目標の到達度を確認していた。

演習も講義同様に1分単位の詳細なタイムスケジュールを入れた演習授業案を作成し、実施していた。講義で使用していた教科書はアメリカの教科書をベトナム語に訳したものであった。

3. ビントゥアン省総合病院見学

ベトナムの医療施設は4段階のレファラルシステムとなっている。その中の省レベルにあたるBTMCの主要な実習病院であるビントゥアン省総合病院を訪問し、病院長から病院概要等の説明を受けた。合わせて、病院見学も行った。訪問時も実習施設ということで病院のあらゆる場所で多くのBTMCの看護学生が実習していた。

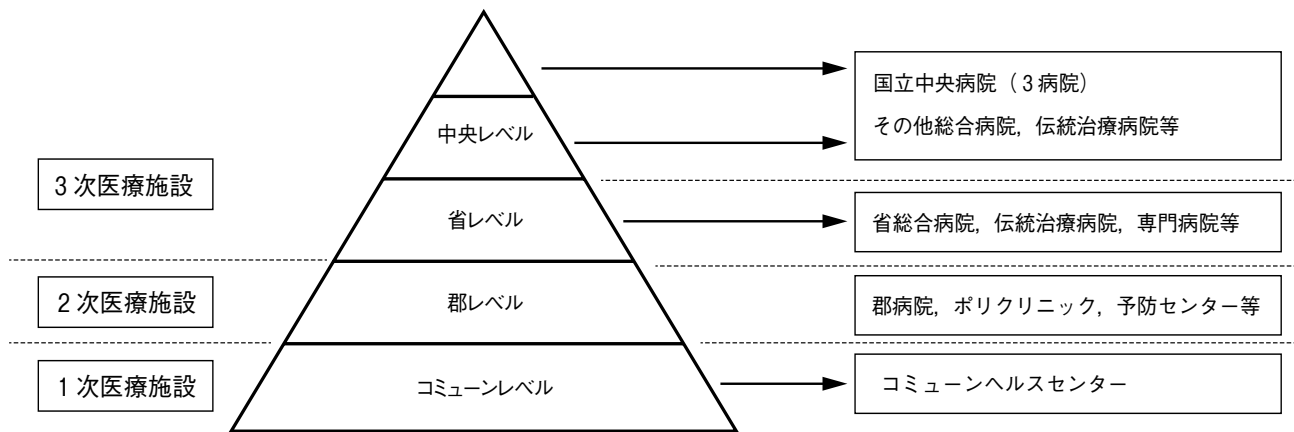


図5 ベトナムのレファラルシステム

(システム科学コンサルタンツ株式会社：ベトナム社会主義共和国保健医療セクター調査資料から抜粋)



図6 ビントゥアン省総合病院

ビントゥアン省総合病院は、850床の総合病院（内科、外科、産婦人科、腫瘍科等25科）である。1日外来患者数約1,000名、職員数約800名（内、医師数120名、看護師500名、事務職100名）の地方都市の中核を成す病院であった。

ベトナムには健康保険制度があり国民皆保険を目指しているが、国民の健康保険加入は7割程度で、主に企業の労働者や公務員が加入している現状がある⁴⁾。そのため、病院入口に医療保険加入所があり、必要時に受診と同時に手続きを行う。そして、病院受付は日本と同様に、事務手続きを行い、診察を受けるしくみであった。今回、病棟見学が行えたのは産婦人科病棟と腫瘍科病棟であった。病棟では防犯上、各病棟入口に施錠がされており、入り口には鍵を管理するスタッフが常駐し病棟へのドアの開閉を管理していた。

産婦人科病棟には、分娩室・陣痛室・光線療法用のク



図7 産科病棟の病室

ベウスが置いてある部屋やインファントウォーマー等が置いてある新生児用の処置室があった。その中で褥室は、3名の部屋もあれば10名以上の病室もあった。10名以上の病室ではベッドとの間隔はほぼなく、カーテン等のしきりもなかった。また、使用しているベッドの高さは80cm程度あり、どのベッドも、鉄パイプのみの簡素な作りで、床頭台や他の家具は設置されていない中、多くの褥婦が入院していた。ベトナムでは、若い世代層が多く、ビントゥアン省総合病院においても、1日30件程度の分娩が行われており、その入院日数は正常分娩の場合平均約4～5日、帝王切開でも1週間程度とのことであった。腫瘍科は、別棟に2014年から新しく設置されており、35床で入院患者に抗がん剤投与やIVHの栄養補給等の処置が行われていた。

施設内には、リハビリ施設や売店等の施設も設置されていた。

4. ビントゥアン省コミュンヘルスセンター見学

ベトナムの省は、その中が複数の郡で構成されており、郡も複数の地区（坊）で構成されている。その中で、ビントゥアン省ファンティエットの18地区に設置されてい



図8 コミュンヘルスセンター玄関

ヘルスセンターの見学を行った。1地区（坊）は6,000人程度の人口を管轄している。見学したヘルスセンターは市内中心部近くにあり他地区と比較すると高学歴者が多く居住している地区であった。ヘルスセンターは、2階建の建物で、診察室や面接室、会議室が設置されていた。内部の診察器具等は簡素なもののみで医療機器等はほとんど設置されていなかった。そのため事故等で外傷の患者が来た場合は簡単な処置のみを行い、治療が必要な場合はすぐに病院に搬送している。このヘルスセンターの主な役割は、地域住民の妊婦健診等の妊産婦管理や血圧測定による健康管理、プライマリケアの役割であり、地域住民誰もが利用可能であるが主な利用者は高齢者や妊産婦、乳幼児が多い。利用に際して医療保険加入等の必要はなく、薬は代金を支払えば処方可能である。ヘルスセンターの利用時間は7:00~11:30、13:30~17:00であるが、夜間緊急時は夜間担当者が対応している。利用者は1日10名程度で、見学時も妊婦の来所者があり、妊婦健診及び保健指導を受けていた。妊婦には、母子健康手帳や予防接種手帳の交付も行っている。

ヘルスセンターの職員は看護師8名と医師1名が配置されていた。ヘルスセンター運営を支援するために、医療協力員という地区組織活動を行うメンバーがおり、見学したヘルスセンターでは22名の協力員がいるとのことだった。医療協力員は40~50歳代の元公務員が多く、1~3ヵ月の研修を受けて、協力員となる。医療協力員の活動としては①病院受診勧奨②乳幼児の栄養状態把握のための計測③産児制限指導④ビタミン投与等を実施している。

5. BTMC教員との交流

BTMCを訪問中、ミーティング等において、各教員からまずは本学から教員を派遣し講義の実施（日本の医療



図9 ベトナムの母子健康手帳と予防接種手帳



図10 コミュンヘルスセンター診察室

発でも可）や教員の共同研究等の教員間交流を希望する意向も出された。次のステップとしてBTMCの学生の本学への留学に関する可能性を探っていくという意見があった。

おわりに

今回の視察では、ピントウアンの看護教育・病院や他施設の実態を把握し、今後の具体的な国際交流について検討を深めることが目的であった。視察を行うことで、看護教育や医療の実態の理解が深まった。国際交流を推進していくという本学の方針の元、今後もBTMCと学術交流を深めていくことは確認したが、活動内容については、今後検討していくことになっている。本学とBTMCの国際交流は開始したばかりであり、両校間で、互いの意向をくみ取りながら教員交流や学生間交流を実施しながら交流を深めていきたいと考えている。特にBTMCを訪問し、学生と交流する中で日本への関心の高さ、そ

文 献

して日本で看護教育を受けたいとの希望を持っている学生が多いことも実感した。あわせて地域住民や教員は若い世代が多く、今後の成長や発展の可能性を感じる国だった。

そして現在は若い世代が多く出生率も高い状況ではあるが、今後は急激な高齢化を迎えることも予測されており日本の医療制度や保健福祉のシステムにも関心が高いことも理解できた。

今後、本学としては、健康へのアプローチの一つとして、フィールドワークや調査を実施する等の協働的活動を通して、ベトナムの住民や生活、医療の実態を把握することが必要と考えた。

このように互いの現状とニーズを相互理解しながら今後も両校にとって有意義な国際交流活動ができるように推進していくことが必要である。

- 1) United Nations HP : World Population Prospects, 検索日2015/10/1, from <http://esa.un.org/unpd/wpp/DVD/>
- 2) 海外職業訓練協会OVTA HP 北川香織, 企業における人づくり—ベトナム編, 検索日2015/10/1, from http://www.ovta.or.jp/hitozukuri/vietnam/pdf/files/hz_vietnam_1_1.pdf#search=%E3%83%99%E3%83%88%E3%83%8A%E3%83%A0+%E5%85%B1%E7%94%A3%E5%85%9A
- 3) システム科学コンサルタンツ株式会社, ベトナム社会主義共和国保健医療セクター調査(医療従事者養成)コンサルタントハウコクショ, 2007年
- 4) 厚生労働省HP : 2014年海外情勢報告, 検索日2015/10/1, from <http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/15/dl/t5-12.pdf>

Abstract

We participated in overseas inspection to understand the status of nursing education, hospitals, and other facilities in Binh Thuan within Phan Thiet Province, Vietnam, and develop specific plans for the promotion of international exchange with Binh Thuan Medical College (BTMC) in Vietnam.

The inspection tour included: (1) explanation of a summary of BTMC, (2) a tour of lecture and training classes in the Department of Nursing of BTMC, (3) a tour of Binh Thuan General Hospital, (4) a tour of health centers, and (5) interaction with teachers.

Since the end of the Vietnam War in 1975, there has been marked progress in the reconstruction of the Socialist Republic of Vietnam. However, infrastructure, health care, education, and other systems have not yet fully developed. Community residents and teachers in Vietnam consist principally of young generation, and the country is expected to further grow and develop. Furthermore, a rapid aging of the country's society in the near future is also predicted.

We hope that interactions among teachers and students of the two schools will be facilitated to promote international academic exchange.

受付日 2015年10月2日

受理日 2016年1月29日

